

猛暑日といわれる酷暑の夏が、ようやく終わりました。

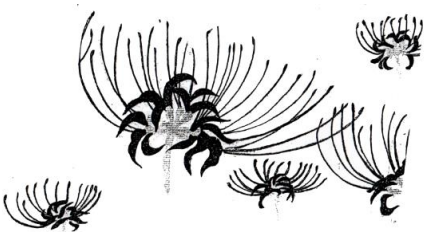
皆さん、お元気にお過ごしでしょうか。お彼岸がやつてまいりました。「お彼岸」は彼岸会という仏教行事で、春のお彼岸と秋のお彼岸があり、それぞれ春分の日と秋分の日を「お中日」として、前後三日間を合わせた七日間の期間をいいます。

お彼岸は、今日ではお寺参りやお墓参りをして、先祖の霊を供養し、彼岸（仏の理想の境地）に達するよう念じるものと受取められています。本



ることのない世界に進めることができたなら、それは、どんなにすばらしいことでしょうか。

小さな 楽しみはすててもし ほんとうに  
大きな 楽しみを 欲しいというなら  
ひとよ  
あの仏のさとりのかぎりない寂浄をこそ  
のぞみたまえ  
あけくれ 泡のような楽しみに  
とらわれることなく



（長田恒雄氏詩集より）

小さな楽しみとは、とらわれている自分の心が求めるものです。大きな楽しみとは、教えに生きることによって与えられる静けさであり、安らぎのことです。

来の意味は「到彼岸」の実践にあります。「到彼岸」とは、「理想の彼の岸に到る」「悟りへの道にたどりつく」ということです。このための手だてとして仏教では、六波羅蜜（ろくはらみつ）を示します。

眼も 耳も 舌も 鼻も  
みんな燃えている  
なんか欲しがって 燃えている  
その火を その火を消しなさい  
苦しみを離れることができるのだよ

（長田恒雄氏の詩集より）

私達人間は、自分の中に二つの心を同居させています。一つは、欲や迷いにとらわれている心、もう一つはそうした迷いに染まることのない心です。お釈迦様が、人間のあり方についてお示しになった、「とらわれの火を消すこと」は、とても大変なことかも知れませんが、欲望や怒り、愚かさ

に染まりきっている自分を、少しでも染まらぬように。迷いに染まる以前の本当の自分に目覚めることが、お彼岸のめざすところといえます。

お彼岸の季節には、お釈迦さまの示された六波羅蜜の教えを、生活の中で実践したいものです。

六波羅蜜とは

布施 物でも心でも喜んで与える人間となる  
持戒 教えを守って人間らしく生きよう  
忍辱 どんな苦しみものりこえよう  
精進 何事にも怠らず励もう  
禅定 深く考えて心を乱さない  
知恵 真の教え み仏の道に目覚めよう  
という六つの実践徳目のことをいいます

今日彼岸

菩提の種を まく日かな

—敬老の日によせて—

春の花には、人の心や目を楽しませる力があります。一方夏のおい繁る青葉には、力強い



生命の息吹きが感じられます。又晩秋の錦織りなす光景も人を魅了してやみません。木々がふるえ、どんよりとした雲におおわれた冬の風情も、落着きや静けさ、そして人々を人恋しくやさしい気持ちにしてくれます。このように天地自然は、それぞれの季節を生き抜く中で、それぞれを愛でることのできるすばらしいものを持っているのです。

では人間はどうでしょうか。年をとると困るといつて、若い頃からクヨクヨ心配して生きる人さえいる程、老いるということに、私達は嫌悪と恐怖をもちが

平均寿命が伸びた現代、年だけ食った熟年になるのではなく、本当に魅力ある老人になりたいものです。

一口伝導板

○善事は

真似になりともするがよし  
いつしかなれて 誠にぞなる

○風のごと

月のごとくに往きゆいて  
一期一会のいのち尊し

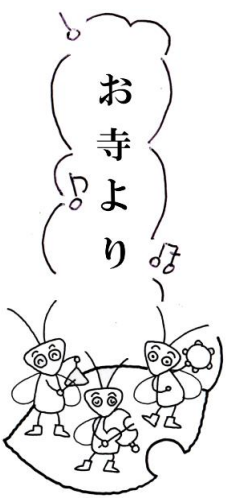
○心こそ

こころ迷わす心なれ  
こころに心 こころゆるすな

ちです。

近頃は、老人といわず、熟年と言おうとか、シルバー世代とか言葉の語感にこだわりますが、老いとは本来、敬称であつて、恥ずべき言葉でも汚い言葉でもありません。老人とはすぐれた人、徳ある人の事であり私達僧侶の最大の敬称は、年に関係なく、老師と言われる事であります。

生まれたての星は青く輝き、中年の黄色に光る時代を経て輝くところの、晩年の星の美しさは、ルビーの比ではありません。それは真紅な色を自から発し、仰ぎみる人のその目や心を奪つてやまないとききます。星をはじめ、天変地異の全てがそうであるのです。まして我々人間にあつては、老いを忌避し、老いからいかにすれば逃がられるかの手段を求めるのではなく、老いてこそ得られる知恵や心で、豊かに輝やかなくてはいけません。



○勤勞奉仕者  
御芳名

お盆を前にした八月五日。墓地、境内地の整掃を皆様に声掛けをして朝八時より御奉仕いただきました。

今年の夏は猛暑日の連続で、観測史上、類の無い酷暑の日々でした。私共の寺は平地に比べ、二、三度は涼しいとはいえ、それでも、お年をとられた方も結構おられ、熱中症にならない対策としての、水分の補給に気を付けながらの作業となりました。

墓参をこの日にあて、遠路、お手伝いに駆けつけて下さる方もいて、整掃の終わつた後の歓談タイムは、皆さん、とても楽しそうでした。

御奉仕いただいた方の御芳名は

小野英敏・小林誠・一寸木つや子・小泉しず江・一寸木和弘・鈴木直幸・一寸木高男・山崎洋二・小泉操・一寸木正治・磯崎泰美・勝又晴美・磯崎正・篠崎一郎・鈴木郁子・小泉直人・一寸木昭司・谷内茂樹・磯崎繁幸・下田雅博・小野清・小石川啓輔・杉山弘一・一寸木誠一・一寸木康夫・一寸木千津子・一寸木勝男・一寸木和子・木口康恵・一寸木治久・高橋光成・高橋信一・一寸木操・一寸木雅明・磯崎貴子・磯崎正史・一寸木重美・長谷川唯志・一寸木健一・篠崎勇・内田清高・鈴木明・磯崎恵美子・磯崎スエ子・下田理恵子・杉山哲・小宅トシ子・永松ミナ・小泉スズ江・下田一路司・一寸木将都・小泉正章・山崎憲昌

以上です。(敬称略)

ありがとうございます。

○ザル菊鑑賞 ―是非 来て下さい―

境内に所狭しと、会員さんが愛情たつぷりに育てたザル菊が並びます。

講師の鈴木三郎邸のザル菊園を観た後に、当寺をのぞいていかれる方も年々ふえ、なかなかの賑わいをみせてくれます。

今年のザル菊会は、住職賞はじめ、各種スポンサーのごほうび付き表彰式が、十一月四日に執り行われます。

○本堂の裏庭の一隅に

総世寺を護つて来られた代々のお坊様方のお

墓があります。私が

住職として当山に参

りました時から、傾

きかけたり、雑然と立ち並ぶ墓石の姿に心

を痛めておりましたが、このたびしつかり

した形で建立できました。御報告まで。

